

目 次

第 41 回大会研究報告要旨

自由論題

旅行記の啓蒙的機能 ——18 世紀ドイツ語圏における知的文脈を踏まえて——	大 林 侑 平	1
啓蒙とフィクション ——『ベルリン月報』グロシinger 書簡を中心に——	斉 藤 涉	2
バーク美学思想の政治・経済思想的含意	中 澤 信 彦	3
マブリ『穀物取引について』の背景	菅 原 多喜夫	6

レクチャー・コンサート

「18 世紀、〈組曲〉への志向」		7
2019 年 6 月 8 日（土）: 17:10 ~ 18:10		
会場：中部大学三浦幸平メモリアルホール		
ピアノ奏者：水村さおり 講師：小沼純一		

共通論題 I

思想史とジェンダー 趣旨説明	安 藤 隆 穂	10
近代的個人の導入	水 田 洋	11
フェミニズムの生成と課題	水 田 珠 枝	12
権力・男色・英雄・紳士——江戸と明治の男性理想像——	渡 辺 浩	15

共通論題Ⅱ

《近代の形成》における古代表象の諸相 趣旨説明	玉田敦子・深貝保則	16
デイドロ美学における古代と近代	青山昌文	17
自由の敵：暴君批判における古代と近代	川出良枝	18
時空間における多数性への転回 ——カントの「普遍自然史」について——	坂本貴志	19
表象のアンゲル——抱き、漂い、移ろう——	深貝保則	21

論文

トマス・ダイチ『新一般英語辞典』のフランスにおける受容	加藤聡	23
ショワジー城のギャラリー装飾画 ——国王をめぐるイメージ戦略と王宮装飾画の変容について——	太田みき	37
リヨンの印刷業者レギヤによる海賊版『社会契約論』（1762年）制作の舞台裏 <small>アンシャン・レジーム</small> ——旧体制下フランスにおける禁書・海賊版の地下出版と出版統制の綾——	坂倉裕治	52
デイドロの「理想的モデル」論：概念の参照と転位	杉野駿	67
カステル神父が夢みた音の「リボン」 ——イエズス会の情報網から浮かび上がるその構想	寺尾佳子	81

書評

鷲見洋一『いま・このポリフォニー 輪切りで読む初発の近代』	井田尚	94
関谷一彦『リバルタン文学とフランス革命——リバルタン文学はフランス革命の影響を与えたか？——』	鈴木球子	96
井田尚『百科全書——世界を書き換えた百科事典』	増田都希	97

淵田仁『ルソーと方法』	折 方 のぞみ	99
門亜樹子『啓発された自己愛——啓蒙主義とバルベラックの道德思想——』	壽 里 竜	101
Denis Diderot, <i>Éléments de physiologie</i> , Texte établi, présenté et annoté par Motoichi Terada	川 村 文 重	103
Véronique le Ru, <i>Émilie du Châtelet philosophe</i>	川 島 慶 子	105
Richard Bourke, <i>Empire and Revolution: The Political Life of Edmund Burke</i>	佐 藤 空	108
Shinji Nohara, <i>Commerce and Strangers in Adam Smith</i>	佐 藤 空	109
Sean D. Moore. <i>Slavery and the Making of Early American Libraries: British Literature, Political Thought, and the Transatlantic Book Trade, 1731-1814</i>	落 合 一 樹	111
Jonathan Rée, <i>Witcraft: The Invention of Philosophy in English</i>	若 澤 佑 典	113
Leo Damrosch, <i>The Club: Johnson, Boswell, and the Friends Who Shaped an Age</i>	小 倉 雅 明	116
田中祐子『公共的知識人の誕生——スウィフトとその時代——』	松 園 伸	117
大河内昌『美学イデオロギー』	騎 馬 秀 太	118
ジョン・ロバートソン著 (野原慎司・林直樹訳) 『啓蒙とはなにか——忘却された〈光〉の哲学——』	上 野 大 樹	120
Silvy Chakkalikal, <i>Die Welt in Bildern Erfahrung und Evidenz in Friedrich J. Bertuchs »Bilderbuch für Kinder«</i>	大 林 侑 平	123
笠原賢介『ドイツ啓蒙と非ヨーロッパ世界 ——クニツゲ、レッシング、ヘルダー——』	後 藤 正 英	125

展覧会評

「ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華——大様式の形成と変容——」	小 林 亜起子	127
<i>L'Âge d'or de la peinture anglaise : de Reynolds à Turner</i>	木 村 三 郎	129
<i>Forgotten Masters: Indian Painting for the East India Company</i>	出 羽 尚	131
会員業績		133
編集後記		135
会則		136
役員選出に関する細則		138
投稿規定		139